



いっぽんぎ

今日が楽しく

明日が待ち遠しくなる学校

- かんがえる子 (知)
- おもいやりのある子 (徳)
- たくましい子 (体)

滝沢市立一本木小学校
令和8年10月19日
第13号 文責：亀 丸

藝術鑑賞教室

9月29日（火）に芸術鑑賞教室を実施しました。昨年度までは国や県の事業により鑑賞教室を開催していたので費用がかかりませんでしたが、今年度はそれらの事業で実施することができず、保護者の皆様に費用を負担していただく形での開催となりました。開催にかかる費用の負担にご協力いただき大変ありがとうございました。来年度はまた国や県の事業で開催できることを願っています。

当日は「くまさん音楽隊」に演奏していただきました。この楽団は、吹奏楽を身近に感じ、より多くの子ども達に、楽器と触れ合いながら音楽をする喜びを味わってほしいという思いで活動なさっている盛岡市に拠点を置く楽団です。

当日は22名の団員の方にお越しいただき、吹奏楽の迫力のある演奏を聴かせていただきました。「マーチ ブルー スカイ」から始まり、「楽器紹介」、「メリーゴーランド」、「ベイビー ゴット ブレス ユー」、「好きすぎて滅」と教科書にもあるようななじみのある曲から最近の流行歌が演奏されました。最後にくまさん音楽隊の演奏で校歌を歌いました。大きな声で元気に歌うことができました。ある曲ではしっとりとした美しい音色を楽しんだり、ある曲ではノリノリで体を動かしたり、アンコールの「銀河鉄道 999」まで思いっきり楽しんだ演奏会になりました。



それぞれの楽器の名前と演奏の仕方や音色を紹介していただきました。

「好きすぎて滅」の演奏でノリノリに踊る3年生。とても楽しそうな表情でした。



4年 防災学習（イーハトーブ火山局見学）

9月30日（水）に4年生がイーハトーブ火山局（岩手山火山防災情報ステーション）に見学に行きました。校報11号で紹介した「お山が燃えている」の大型紙芝居の鑑賞で、過去に岩手山が噴火した時にここの一本木でも大きな被害が出たことを知り、それぞれが火山災害について学習課題をもちながらの見学となりました。日本にはいくつもの火山があり過去に噴火している山があること、もし岩手山が噴火したときに、どこでどのような災害が起きる可能性があるのか、そして火山だけではなく豪雨等により起こる岩屑なだれや土石流の恐ろしさについても学習しました。さらに、土石流から地域を守るために国土交通省がつくっている砂防堰堤を見学することができました。イーハトーブ火山局で模型を使って説明していただいたものを、実際に見ることで学びが深まりました。



松尾八幡平ビジターセンターでおいしいお弁当をいただき、ハンカチ落としやおにごっこなどを楽しみました。八幡平の美しい景色を間近で見ることができました。

見学の最後に、1732年の噴火で流出した焼走り熔岩流を見学しました。一面に広がる熔岩を見て火山噴火の規模の大きさを実感することができました。

4年生はこれから紙芝居や火山局の見学等で学んできたことを考察しながらまとめ、自分達の学びを発表する学習を進めていきます。噴火警戒レベルが1に下がり、入山規制が解除された岩手山ですが、あくまで火山であることに注意しながら、災害に対して常に備える意識をしっかりともってほしいと思います。



模型で土石流や泥流の発生と被害を学習した後、実際に洞ヶ沢砂防堰堤を見学。この堰堤は噴火に伴う降灰と降雨に溜土石流から町を守るためのものだそうです。

焼走り熔岩流を見学する子ども達。岩手山が見守っているよう。

2年 陸上自衛隊岩手駐屯地見学学習

10月5日（月）に2年生が陸上自衛隊岩手駐屯地の見学学習をしました。これは、自分達が住んでいる一本木地区にどのような施設があるのかを知り、そこで働いている方々が普段どんな仕事をしているのかを学ぶことや災害時に自衛隊の方々がどのような活動をしているのかを学習することを目的としています。

最初に身の回りの物を使ってスリッパや担架をつくる方法を教えてくださいました。子ども達は新聞紙を上手に折り、自分の足に合ったスリッパを作ることができました。担架は実際には組み立て式のものを使いましたが、清掃用具の柄と毛布などでも簡単に作れるそうです。数人集まれば子ども達の力でも大人を持ち上げることができることを実感しました。

次に自衛隊で大切にしている所作を教えてくださいました。隊員の皆さん全員が心を一つにするために、「敬礼・気を付け」等の所作を大切にしていることを教えてくださいました。

最後に駐屯地の建物の屋上から自分達が住んでいる一本木地区を見せていただきました。グラウンドで訓練をする隊員さんの姿も見ることができました。



新聞紙でスリッパづくり。
いざという時足を守ることができます。

清掃用具の柄と毛布などで担架を作ると、子ども達の力でも大人の人を運ぶことができることを教えてくださいました。